

# オール室蘭の協議会発足

## 検診受診率向上へ連携

室蘭の行政、議会、医療機関、マスコミなどもが連携し、がん対策を進める「室蘭がん対策協議会」(仮称)が24日夜に発足し、実効性のあるがん対策に着手する。室蘭市の本年度のがん検診受診率は1割台(1月末時点)と低迷している。半面、昨年4月から始めた胃がんの原因とされるピロリ菌検査費用助成の利用者は増加傾向だ。新年度は検査対象を中学生にも拡大し、がん予防を強化する。

(芝田 尚の音)

## ピロリ菌検査 中学生にも拡大

協議会は市、市議会、職と家族の会「フォーエバ」が中心で、北海道新聞社室蘭支社、室蘭民報社、NHK室蘭放送局、地域FM局「FMびりー」を運営する室蘭「まちづくり放送」が組織。初集まる「発足記念式」を3月中にも開くことを決めた。

協議会の目的の一つが、がん検診受診率の向上。室蘭市の受診率は胃がん1%、肺がん15・4%、大腸がん7・6%と低水準。そのほかのがんでも、前立腺6・9%、子宮8・2%、乳房12・7%と低い。

一方、ピロリ菌検査は認知度が向上。50、55、60、65歳を対象に、自己負担700円で感染の有無を調べられる。昨年4月に導入された利用者は今年1月には112人に増加した。

市健康推進課が10、12月、未受診者へ個人通知したことに加え、製鉄記念室蘭病院で12月17日シンポジウムを開催する。



「室蘭がん対策協議会」(仮称)の初会合。24日夜、ム「がんを防ごう」室蘭地域の現状と課題「(北海道新聞社室蘭支社、室蘭民報社主催)が開かれたことなど、市民に周知されるようになっているため。新年度は4月から対象者に通知し、さらなる利用拡大につなげる考えだ。

中学生のピロリ菌検査は無料で対象は、3年生。同課の田中野子主任は「中学生からその保護者や祖父母へピロリ菌などについて話してもらい、地域全体でがん予防に取り組みたい」と話している。

# 室蘭がん対策協議会発足

## 道内自治体で初、安心なまちづくり推進



同協議会は、設立を呼び代表取締役社長の、北海道新聞社室蘭支社(工藤 浩) 新聞室蘭支社、NHK室蘭放送局の在室、マスコミエ機関のほか、趣向の協同した室蘭まちづくり放送、室蘭市、室蘭市議会、製鉄記念室蘭病院、室蘭商工会議所、

室蘭市内の行政機関や医療機関、患者団体、報道機関など約10組織が協力した「室蘭がん対策協議会(仮称)」が24日に発足した。道保健福祉部に当たる、同様の組織設立は道内自治体では初。「がんになっても安心なまちづくり」を進めるため、各団体代表と市民協議会発足記念式の素月開催や、同協議会主催の「がんに関わるイベント」の実施に向けて調整する方針などを確認した。

(松岡 尚の音)

今後の取り組みなどを確認した「室蘭がん対策協議会(仮称)」の初会合

室蘭市医師会、がん患者と家族の会「フォーエバ」で構成。24日夜には市内東町の保健センターで初会合が開かれ、関係者ら18人が出席。市は全道に先駆けて昨年4月に施行した「がん対策推進条例」などを報告。協議会を構成する各マスコミは「がん対策などの取り組みを積極的に報道する」「市民を啓蒙する」ことなどを確認した。

このほか、来月にも各団体代表による協議会の発足記念式を開催するほか、シンポジウムやセミナーなど、がんに関連するイベントの実施に向けて、次回以降の会合で調整していく方針を決めた。

また、出席者からは、実効性の高いがん対策を進めた動きで期待を推進する必要があるため、「官・医・患・民」のネットワークを生かす必要がある。かした取組の相分の実践や、適切な役割分担、一体化した動きで期待を推進する必要があるため、「官・医・患・民」のネットワークを生かす必要がある。